

敬和学園大学 2025 年度活動報告集計

敬和学園大学

図書館・人文社会科学研究所・紀要編集委員会 作成

本集計は、敬和学園大学人文学部 国際文化学科、英語文化コミュニケーション学科、共生社会学科、教員 27 名の「2025 年度 教育活動・研究活動・社会貢献報告書」に基づく研究活動及び社会貢献活動についての一覧である。

1. 研究活動

			3 学科合計件数	過去 5 年間平均
著書	単著		0	1.0
	共著		4	1.8
	編著		0	0
	分担		2	3.5
論文	単著	査読有り	2	1.6
		査読無し	11	10.6
	共著	査読有り	1	1.3
		査読無し	1	3.0
翻訳			1	0.2
その他			6	10.6
学会発表 口頭発表	国内	招待	4	4.4
		個人発表	13	8.2
	国際	招待	1	0.4
		個人発表	0	2.0
研究資金		件数	9	14.8
		金額	2,638(千円)	3,862 (千円)

2. 社会貢献

	三学科合計件数	過去 5 年間平均
講演・公開講座	30	22.8
学会等	12	10.4
国の審議会等委員	1	1.2
地域社会の審議会等委員	75	68.2

3. 考察

研究活動は、著書 6 件、論文 15 件、翻訳 1 件、その他 6 件、学会発表 18 件、研究資金 9 件であった。著書は昨年度より 1 件増え、その内訳は単著 0 件で増減なし、共著 4 件増加、分担執筆 3 件減少の 2 件であった。論文は昨年度から 10 件増え、その内訳は単著査読有り 2 件、単著査読無し 11 件、共著査読有り 1 件、共著査読無し 1 件であった。学会発表は 9 件増加、翻訳と研究資金が 1 件ずつ増え、著書、論文、学会発表など 25 年度の業績は大幅に増加した。その他 2 件

減らしたものの、研究活動は活性化し始めたといえよう。

今後も引き続き、図書館・人文社会科学研究所・紀要編集委員会として研究者の活動を支えていく必要はある。ただし、研究活動は必ずしも短期的に結果が出せるものばかりではないため、数値にとらわれた施策に陥らないように引き続き注意したい。今年度の業績件数の上昇は目覚ましいが、教員数が減少しているため、一人あたりの業績効果・負担は大きく、単純に経年変化で評価することは避けたい。長期的・持続的な研究活動を支える上でも、学内業務も含めて自宅での深夜労働などワーク・ライフ・バランスにも配慮する必要があるだろう。

最後に社会貢献は、昨年度と増減なく、本学の地域貢献度の高さはこの5年間で飛躍的かつ継続的に伸び続けている。